



新たな感動「大東スポーツフェスティバル」

副校長 菅原 友子

校舎に続き、令和元年12月に校庭が新しくなり、ようやく自校の校庭で運動会開催…と思ったのも束の間、コロナ禍となり、教育活動の制限。本校は750名近くの児童が在籍する大規模校です。運動会を計画するにあたり、感染防止を一番に考慮し、種目を減らし、開催方法も大幅に変更せざるを得ませんでした。それでも今年度は、50メートル走と表現の2種目を全学年での同日開催で行い、児童は一つ前の学年の演技をその場で見る、という形で「大東スポーツフェスティバル」を開催しました。本番は、前日までの雨模様も解消され、一人一人がめあてをもって練習に励んだ成果を十分に発揮することができました。子どもたちの振り返りを紹介します。

- 【1年生】ダンスをキレキレに踊れてよかったです。リズムを聞いて間違えないように踊れて嬉しかったです。
- 【2年生】練習中にメリーゴーランドができなかったけど、だんだんできるようになって当日メリーゴーランドが成功してよかったです。
- 【3年生】練習をするうちにみんなの動きがそろうようになりました。今までで一番いい踊りができました。
- 【4年生】最初は、友達とタイミングを合わせて踊ることができなかったけれど、練習を重ねていくうちにだんだんと曲をよく聞いて、リズムに乗って踊れるようになり、友達とタイミングを合わせられるようになりました。本番では、緊張したけれど最後まで一生懸命踊れました。これからもどんなことにも一生懸命取り組んでいきたいです。
- 【5年生】まっすぐ腕を伸ばし、指先も意識しながら踊ることができた。本番は緊張したけれど全力で踊ることができたし全力で走ることができたのでよかったです。ソーラン節のずらしの部分や移動のところも間違えずに踊れたのでよかったです。
- 【6年生】表現で感じられた一体感を生かして、これからもクラスで団結して、物事を達成していきたい。

「行事を通して子どもは成長する。」これはいつも担任が実感する言葉です。振り返りには、“できなかったことができるようになった”“めあてを達成することができた”という内容がとても多かったです。自分自身の努力や頑張りを再発見したり、さらに頑張ろうという意欲や向上心を高めたりすることができた喜びが表されており、一人一人の成長が見て取れました。本番当日、競技や演技が終わった子どもたちの表情は、達成感に満ちあふれていました。参観してくださった保護者の方々にも、大きな感動を与えてくれたのではないかと思います。

次は、「秋の授業発表会」です。大東小の新たな感動が続きます。